



わたしの一冊・わたしの一本

バナナブレッドのプディング

大島 弓子 著 白泉社文庫 / 1995.9 発行 (電子書籍版あり)

すいしゃ 推せん者	相模女子大学学芸学部子ども教育学科 ひじょうきんこうし さきさかけいこ 非常勤講師 匂坂桂子 先生		
おすすめ	おためし	<input checked="" type="checkbox"/> お気に入り	対象：中学生以上
匂坂先生が担当した さがまちカレッジ	『ことわざ英語かるた』で遊ぼう♪ など (2017年～2019年7月)		

「わたし、薔薇の木は大好きだった。でも、薔薇の木から好きだよなんて言ってもらえるなんて夢にも思わなかった。夢にも思わなかったわ……。」これは高校生だった私が一等心を打たれた主人公衣良のモノローグ。

化粧(した顔)は人前で見せるものではないと思っている高校生の衣良は、幼なじみの御茶屋峠と偽装結婚することに…。

「世間に後ろめたさのある男色家」と言う設定がそもそもエキセントリックだったが、詩的かつ哲学的、時に難解と称されるナイーブな台詞の数々、心理セラピー的要素のある本作は一女子高生のハートを完全に射抜いて余り有るものだった。

「まあ生まれてきてごらんなさい。最高に素晴らしいことが待ってるから」姉である紗良が誕生(するであろうと思われる)前の赤ちゃんに呼びかけるこのメッセージは、時を越え私たちに希望と言う名のエネルギーを与え続ける。登場人物もそれぞれ個性的で、私が勝手に戯曲にしたいと思う原作ナンバーワンだ。衣良は、峠は、さえ子は、そして大地くん役は一体誰!?

※初出『月刊セブンティーン』(集英社) 1977年11月号～1978年3月号まで連載

おすすめ：先生が担当した講座に関する勉強ができる作品

おためし：新しいことを勉強する良いきっかけになる作品

お気に入り：先生の好きなことに関する作品や、先生の心に残る作品